

中学校

平成 16 年 度

教育研究員研究報告書

道

徳

東京都教職員研修センター

研究主題

自他を尊重し、豊かな心をはぐくむ道德の時間の指導
- 個に応じた指導の一層の充実を目指して -

目次

研究主題設定の理由	1
研究の構想	2
内容項目 3 - (2) 「生命の尊重」についての指導 (第 1 分科会)	3
1 内容項目設定の理由	3
2 研究の内容と方法	4
(1) 内容項目 3 - (2) のとらえ方	4
(2) 生徒の実態と指導のねらい	5
(3) 個に応じた指導の一層の充実	5
(4) 指導事例	7
3 第 1 分科会のまとめ	11
(1) 成果	11
(2) 課題	12
内容項目 4 - (1) 「集団生活の向上」についての指導 (第 2 分科会)	13
1 内容項目設定の理由	13
2 研究の内容と方法	13
(1) 内容項目 4 - (1) のとらえ方	13
(2) 生徒の実態と指導のねらい	14
(3) 個に応じた指導の一層の充実	15
(4) 指導事例	17
3 第 2 分科会のまとめ	22
(1) 成果	22
(2) 課題	23
まとめと今後の課題	24
1 まとめ	24
2 今後の課題	24

研究主題

自他を尊重し、豊かな心をはぐくむ道德の時間の指導
- 個に応じた指導の一層の充実を目指して -

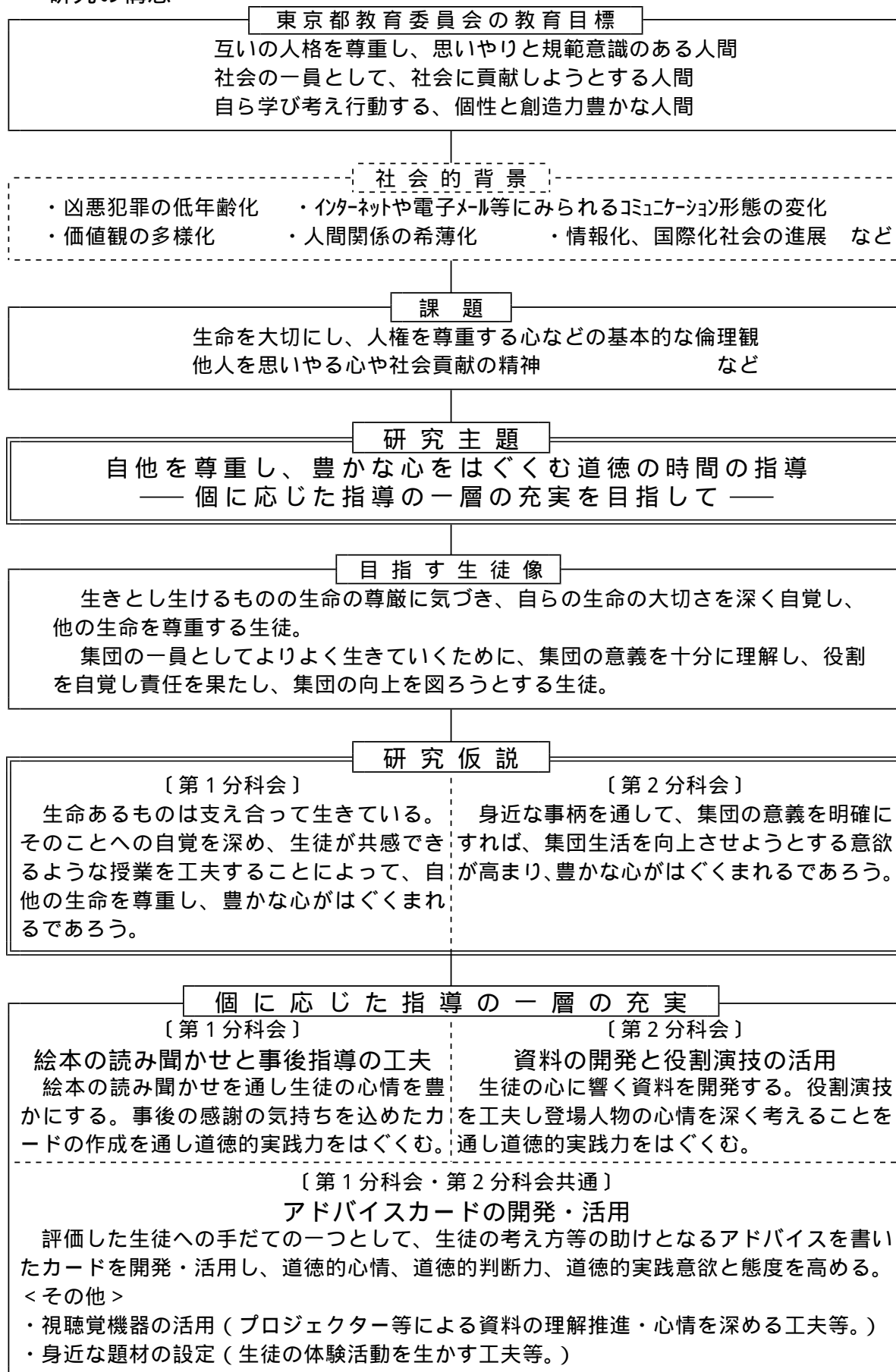
研究主題設定の理由

近年、子どもを取り巻く環境は激変している。国際化・情報化社会の進展に伴い、人々の価値観は多様化し、インターネットや電子メール等にみられるコミュニケーション形態の変化などにより人間関係がますます希薄になり、他人とうまくかかわることのできない子どもも増えてきている。このような時代を迎え、最近では目を覆いたくなる青少年による痛ましい事件が続いている。悲惨な事件を二度と繰り返さないようにするために、東京都教育委員会では様々な方策を展開しているが、その一つとして道德教育を充実し子どもたちに豊かな心をはぐくむことがあげられる。豊かな心とは生きる力の核となるものであり、それは、生命を大切にし人権を尊重する心、他人を思いやる心、美しいものや自然に感動する心、正義感や公正さを重んじる心、他者とともに生きる心、自立心や我慢する心などである。本来、豊かな心は、子どもを取り巻く地域社会の中で、豊かな体験を通して養われていくものである。しかし、人間関係が希薄化している現代においては、学校が家庭・地域社会との連携を深め、心の教育の推進を働きかけるとともに、学校における道德教育の一層の充実を図り、道德教育のかなめとなる道德の時間の指導をより深めていくことが極めて大切である。

中学生の時期には、自己肯定感が低く自分を好きになれなかったり、利己心や狭い仲間意識に左右されたりしてしまうことがある。まずは、自分自身を好きになり、かけがえのない自分を大切にすることを育て、他の生命のあるものも、自分と同じようかけがえのない存在であることを理解し、生命の尊厳について深く考えさせることが重要である。生命あるものはお互いに支え合って生き、生かされている。また、人間の生命は人間関係の中で保たれ、集団や社会とのかかわりにより支えられている。そのことを理解し、集団の中で自分と他者とのかかわりを大切に、励まし合うという協力関係の存在する人間関係を築くと同時に、自らを高め、人間的な成長を遂げるようにすることが重要である。そのためには、道德の時間における個に応じた指導の一層の充実を目指し、教材の効果的な活用、心を揺さぶる教材の選定・開発、評価に応えた手だての研究などを通し指導を深めることが必要である。

そこで、上記の課題に応えるために、第1分科会では、内容項目3 (2)「生命の尊重」を取り上げ、研究仮説を「生命あるものは支え合って生きている。そのことへの自覚を深め、生徒が共感できるような授業を工夫することによって、自他の生命を尊重し、豊かな心をはぐくまれるであろう。」と設定し研究を進めた。また、第2分科会では、内容項目4 (1)「集団生活の向上」を取り上げ、研究仮説を「身近な事柄を通して、集団の意義を明確にすれば、集団生活を向上させようとする意欲が高まり、豊かな心をはぐくまれるであろう。」とし研究を進めた。分科会では、内容項目の検討、生徒の実態把握、資料の収集・分析、検証授業に基づく研究・協議、個に応じた指導の一層の充実を目指した資料の選定・開発及びアドバイスカードの開発を通し、研究主題に迫ることとした。

研究の構想



内容項目 3 - (2)「生命の尊重」についての指導 (第 1分科会)

1 内容項目設定の理由

生命とはかけがえのないものである。「生命の尊重」とは、生きとし生けるもののかけがえのない生命をいとおしみ、自分自身もまた多くの生命によって生かされていることに素直に応えようとする心の表れである。

しかし、実際のところは身近な人の死に接したり、生命のかけがえのなさに心を揺り動かされるような経験をもつことも少なくなっている。

自他の生命を尊ぶには、まず自分が毎日健康に過ごしていることへのありがたさや、生きることの尊さを深く考えることが大切である。生命には限りがあり、テレビゲームのように生き返らせることは不可能である。生命の有限さを自覚することが、生命を大切にすることにつながっていく。そしてさらに、人間として生きていくことの素晴らしさを自覚することにもつながっていく。

中学生の時期は感受性が豊かであり、自己への理解が深まってくる。同時に、自分の在り方や生き方についての関心も高まってくる。強く、たくましく、誇りをもって、よりよく生きていく意味を深くかみしめさせたい。

また、人間は一人で生きているのではなく、日々お互いに支え合いながら生きている。人間の生命は人間関係の中で保たれる側面があることをも考え、自覚していくことが必要である。安定した人間関係を築くためには、お互いに励まし合い、お互いに思いやることが大切で、そうしたことに気付き、豊かな心をはぐくんでいくことが重要なのである。

人間は誰でもよりよく生きていきたいという気持ちをもっている。変化が激しい社会において、自らの生命の大切さを深く自覚するとともに、他の生命を尊重する態度を身に付け、生命を大切にし人権を尊重するなどの豊かな心をもった生徒をはぐくむことが、今求められているのではないかと考える。

以上の視点から、第 1 分科会では内容項目 3 - (2)「生命の尊重」に焦点を当てることにした。かけがえのない自他の生命を尊重する態度を育てるためには、生徒一人一人の心情を深めながら、個に応じた指導を一層充実させることが大切である。そこで、本分科会では、生徒の感性に訴え豊かな感動を与えることができる、絵本の特性に注目することにした。道徳の時間の指導において適切な絵本を活用することは、生徒の関心・意欲を高めるとともに、資料に関する理解を容易にし生徒の心情をより深めることができる。このことは、生徒が自ら課題に取り組み、自己や他者との関係を深く見つめ、道徳的実践力を高めていくことになると考え、本分科会では以下の仮説に基づき研究を進めることにした。

< 仮 説 >

生命あるものは支え合って生きている。そのことへの自覚を深め、生徒が共感できるような授業を工夫することによって、自他の生命を尊重し、豊かな心をはぐくまれるであろう。

2 研究の内容と方法

(1) 内容項目 3 - (2) のとらえ方

内容項目 3 - (2) は「生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する」ことが指導内容である。

人間はだれでも自分や他の生命を大切にしたいと願っている。しかし、同時に自他の命を大切に扱えない心の弱さをももっている。

中学生の時期においては、身近な友人とのトラブルを経験しながら成長していくことが多い。その際、生命がかけがえのないものであるという実感に乏しい言動が、しばしば見られることがある。こうした問題を深く掘り下げてゆくと、生徒個人の心の問題にいきあたることが多い。たとえば、自分に対して自己肯定感がもてなかったり、人の痛みに共感する力が不足していたりするなどである。

しかし、人間はこうした課題を克服し、人間としてよりよく生きていくことが大切である。そのためには、自他の生命をお互いに尊重し、道徳的価値への理解を高めていけるよう、道徳の時間の指導を深める必要がある。また、「生命の有限さ」「感謝すること」「望ましい生き方」への気付きをはぐくむことが必要であると考えた。

ア 「生命の有限性」への気付き

生命というのは限りがある。このことを、あまり実感としてとらえられずに日々の生活を送っている生徒もいる。生命の尊さを理解するには、まず、自分の生命は有限だということに気付くことである。終わりがあるからこそ、今与えられている時間を大切に使うと心をもつことができる。この有限性への気付きをはぐくみ、生徒がよりよく生きていくようにすることである。

イ 「感謝すること」への気付き

生命の有限さに気付いたら、次に、周りの人間に感謝することに気付かせることである。自分も周りの人間も懸命に生きており、人間と人間との出会いやふれあいを通して、周りの人間から多くのことを与えられている。家族、友人及び周りの人間に、生きていくことに必要な知識や知恵を教えてもらい、愛情を与えてもらい、今の自分が存在している。今まで当然としたり無関心であったりしたことをそのままにせず、ありがたいことであると生徒に再確認させ、生きていることは、周りの人間に生かされていることでもあることを理解し、感謝への気付きをはぐくむことである。

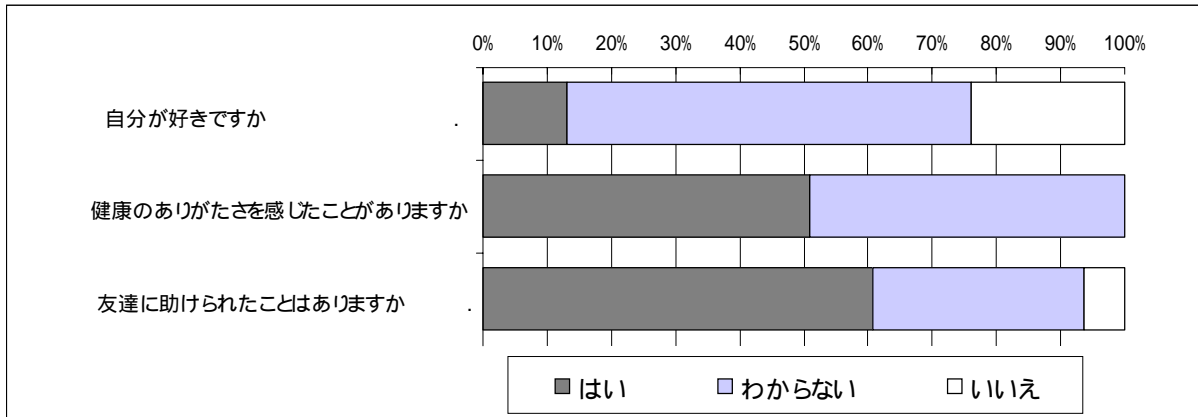
ウ 「望ましい生き方」への気付き

他者の支えに感謝することに気付いたら、さらに、どのように過ごしていったらよいか自ら考え、自分の望ましい生き方について気付くことである。自分の生命は、望ましい人間関係の中で保たれてゆくものであることも理解し、他者のためにできることを自ら考え実践してゆくことも大切なことである。生命の有限性や他者への感謝の気持ちが原動力となって、生徒が望ましい生き方をしていくようにすることである。

(2) 生徒の実態と指導のねらい

第1分科会では、自分が生かされていることへの感謝、自他の生命の大切さについての意識や行動に関する生徒の実態を把握するために調査を実施した。対象は都内公立中学校6校の第1学年から第3学年414名である。それぞれの質問項目について3つの選択肢から適する回答を1つ選び、「はい」を選択した生徒にはその理由を自由記述してもらった。

【自分の意識や行動に関するアンケート】



「自分が好きですか」の質問に対して、「はい」と答えた割合は1割強と少なく、「自分の明るいところ」「自分の前向きなところ」が好きなどの記述がみられた。

「健康のありがたさを感じたことがありますか」の質問に対して、「はい」と答えた割合は約5割で、「病気の人を見たとき」「みんなと遊んでいるとき」にありがたさを感じるなどの記述がみられた。

「友達に助けられたことはありますか」の質問に対して、「はい」と答えた割合は約6割であった。「勉強やスポーツで困ったとき」などの精神的な支援による記述もみられたが、「消しゴムを貸してくれたとき」など物質的な支援を受けたときの記述が多く外面的なつきあいに留まっている現状が考えられる。

調査より、多くの生徒が、自己肯定感が低いこと、健康であることへの感謝の気持ちが弱いこと、友達に助けられた体験は物質的な支援が多いこと、等の実態を分析することができる。また、自他の生命を尊重しようとする生徒の姿を見いだすことが難しく、生命を尊重する気持ちが弱いことや生命を尊重する体験が少ないという現状を伺うことができる。

(3) 個に応じた指導の一層の充実

ア 絵本の読み聞かせ

絵本は絵から受けるイメージを通して、内容が語られる資料である。絵のもつ力により、生徒のこれまでの経験を踏まえて内面に根ざした道徳性の育成を図り、生徒の想像の世界を広げ考えをより豊かに表現させることができる。また、教師が心を込めて読み聞かせることで、生徒たちの感性を高めることができる。この指導法は生徒の豊かな心を育てることにおいて大変有効であると考えられる。



イ 道徳の時間を終えての指導の工夫

道徳の時間で学習したことをさらに深めていくために、事後の指導を行うことも必要である。検証授業を終えた後、生徒一人一人が感謝の気持ちを伝えたい人は誰なのかを考えさせ、自分の気持ちを豊かに表現し伝えることを通して、個に応じた指導を一層深めるようにした。また、教師がカードを読み、生徒一人一人に対して温かい言葉のメッセージを記入し返却するようにした。

ウ アドバイスカードの活用

道徳の時間においては、道徳教育の目標や本時のねらいに照らして、生徒の道徳的実践力を高めることが大切である。そのためには、指導前後の生徒の状況把握に努めることはもちろんのこと、授業内において適正な評価を実施し、その評価に応えた適切な手だてを講じ、生徒一人一人の道徳的実践力を高めていくことが必要である。生徒自らの道徳的心情を深めたり、人間としてよりよく生きていこうと判断したりすることを支援する手だての一つとして、アドバイスカードの活用に取り組んだ。まず、観察、面接、作文・ノート・ワークシート及び生徒の自己評価などを用い、生徒を適正に評価する。次に、評価した生徒に対する手だての一つとしてアドバイスカードを活用し、生徒一人一人の道徳的心情、道徳的判断力、道徳的実践意欲と態度をより深め、個に応じた指導の一層の充実を図る。

なお、教員等による自主的なチームティーチング等の指導形態を工夫すると、さらにきめ細かく個に応じた指導を展開することが可能となる。

本研究では、道徳の時間におけるアドバイスカードとして、道徳的心情、道徳的判断力、道徳的実践意欲と態度の3点に応える、下記の3種類のカードを考えた。

(ア) 道徳的心情カード

道徳的に望ましい感じ方や考え方、行為に対して、あるいは逆に望ましくない考え方、行為に対して、生徒がどのような感情をもっているのかについて把握し、道徳的心情を高めるための補助的な発問を記入したアドバイスカードを提示し生徒の考えを助け、深めさせるものである。

(イ) 道徳的判断力カード

道徳的諸価値についてどのようにとらえているか、また、道徳的な判断を下す必要がある問題場面に直面した際に、生徒がどのように思考し判断するかを把握し、道徳的判断力を高めるための補助的な発問を記入したアドバイスカードを提示し生徒の考えを助け、深めさせるものである。

(ウ) 道徳的実践意欲と態度カード

学校や家庭での生活の中で、道徳的によりよく生きようとする意思の表れや行動の構えが、どれだけ芽生え、また定着しつつあるかを把握し、道徳的実践意欲と態度を高めるための補助的な発問を記入したアドバイスカードを提示し生徒の考えを助け、深めさせるものである。

(4) 指導事例 (第2学年)

ア 主題名 生命の尊重 [内容項目 3-(2)]

イ 資料名 「わすれられないおくりもの」 評論社
スーザン・バーレイ 作 小川 仁央 訳

ウ 資料の概要

賢くていつもみんなに頼りにされているアナグマだが、冬が来る前に手紙を残して死んでしまった。その悲しみにくれる動物たちは、それぞれがアナグマとの思い出を語り合ううちに、様々な知恵や工夫を残してくれたアナグマの存在の大きさ(生命の尊重)に気付く。そして、春が来る頃には、アナグマとのことが楽しい思い出へとかわる。

エ ねらい

生徒に「死」について考える場を設定し、生命の有限性に気付かせる。また、かけがえのない人を失ったことから、生命あるものは支えあって生きていることを知り、感謝の気持ちを思い起こさせる。本時を通し、生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する道徳的实践力を育てる。

オ 指導過程

	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	: 指導上の留意点、 : 評価の観点及び< > : 評価方法
導入 4分	目を閉じて静かにBGMを聞く。 目を開き投影された絵本の絵を見る。	・心が癒される。 ・落ち付いた気持ちになる。 ・見たことがある。 ・温かい絵だな。	【T.T】 興味を高めるとともに、心を落ち着かせる。 絵本の挿絵を投影しながら授業を進める。
展開 34分	スクリーンの絵を見ながら資料の全編を聞く。	・朗読を聴く。	【T.T】 T ₁ は授業を進行し、発問する。 T ₂ は資料を朗読し、板書する。 T ₁ 、T ₂ とともにア・バ・イカード [®] を適宜活用し生徒を支援する。 ア・バ・イカード [®] を活用する。

展開	[発問 1] アナグマはなぜ自分の死を予期していたのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・年をとったから ・体の自由がきかなくなったから。 	映像シート 1 を投影する。 <ワークシート> 生命の有限性に気付くことができたか。 【T.T】
	[発問 2] アナグマの思い出を語り合っ、どんなことに気がつきましたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・生きていたときにアナグマからたくさんのことを教えてもらったことに感謝していること。 ・アナグマの存在感が大きかったこと。 	映像シート 13 を投影する。 <ワークシート> 生命の尊さについて考え感謝の気持ちをもつことができたか。 アドバイスカードの活用 【T.T】
	34分 [発問 3] アナグマからの「おくりもの」をどう生かしていきますか。自分の考えを記入した短冊を黒板に貼る。	<ul style="list-style-type: none"> ・かけがえのないアナグマからのおくりものなので、いつまでも大切にします。 ・知らないみんなにも教えてあげる。 	映像シート 23 を投影する。 一斉に短冊に記入させる。 <観察及びワークシート> 生命の尊厳に気付き、望ましい生き方について考えることができたか。 【T.T】 T ₁ は黒板の短冊を読み上げる。
終末 12分	[発問 4] 今回の授業であなたが感じたこと、考えたことを書いてみましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・生命には限りがあるので大切に生きたい。 ・自他の生命を大切によりよく生きる。 ・互いに支え合って生きていることに感謝する。 	<観察とワークシート> 生命の尊さを理解しかけがえのない自他の生命を尊重する豊かな心情を育てることができたか。 【T.T】

カ 評価の観点

生命の尊さを理解しかけがえのない自他の生命を尊重する、豊かな心情を育てることができたか。

生命の尊厳に気付き、感謝の気持ちをもて、望ましい生き方について考えることができたか。

キ 本時の事後指導

「感謝のカード作り」

学 習 活 動	：指導上の留意点及び：評価の観点
感謝の気持ちを伝えたい相手を考える。 ・感謝の言葉を考える。 ・気持ちを込めて感謝のカードを書くことを通して生命の尊さについて考える。	感謝のカードを読み、生徒一人一人に応えた問いかけやメッセージをおくる。 感謝のカード作りを通して、自他の生命を尊重する道徳的実践力は高まったか。

本時の事後指導において、生徒が感謝の気持ちを込めて自分にとってのアナグマへのカードを書くことを通し、道徳の時間で学習したことを振り返らせ、生命の尊さを理解しかけがえない自他の生命を尊重する道徳的実践力を高めるようにした。他者からの支えがあって今の自分があることに気付かせたり、手紙を受け取った相手の気持ちをじっくりと考えさせたりすることで、生徒の心情を深めることもできた。また、教師が生徒一人一人が作成したカードに応え温かな問いかけやメッセージを送り、個に応じた指導の一層の充実を図ることができた。

ク アドバイスカードの活用

道徳の時間における生徒一人一人の道徳的実践力をより高めるため、評価したことへの手だての一つとしてアドバイスカードを用意することにした。生徒の学習状況の適正な評価に応え、道徳的心情カード、道徳的判断力カード、道徳的実践意欲と態度カードの3種類のカードの作成を目指した。

以下、作成に当たったの留意点を示す。

文字の大きさなどを配慮し、見やすくする。

記述内容は、簡潔で、分かりやすくする。

文章は温かい表記にする。

生徒の状況に応じた数種類のアドバイスカードを用意する。

必要に応じイラスト入りのアドバイスカードを用意する。

生徒一人一人の状況をよく把握し、観察、面接、質問紙、作文やワークシートなどの適切な評価方法を用い、評価の観点に基づき生徒を適正に評価することが重要である。その上で、手だてが必要な生徒に対して適切なアドバイスが出来るよう、用意したアドバイスカードを机間指導しながら渡していく。

本研究では、上記の作成に当たったの留意点をふまえて、次ページのようなアドバイスカードを作成し、実際に検証授業である道徳の時間に使用することとした。今回紹介したアドバイスカードは、3種類のうちの道徳的心情カードである。

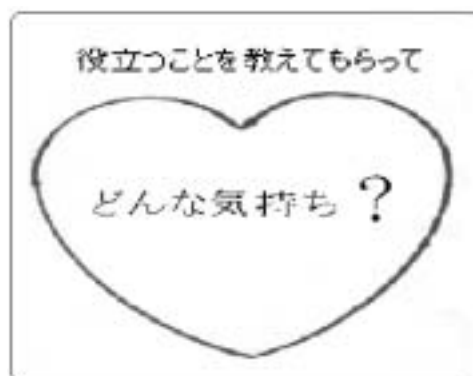
さらに個々の生徒に適切に応えていくためには、教師が必要に応じアドバイスを記入できる未記入のカードを用意し活用したり、作成したアドバイスカードを渡すときに教師が温かな言葉を添えたりするなどの工夫が考えられる。

ケ アドバイスカード例（8ページの発問2で活用した道徳的心情カード）

例示はアドバイスカードAからアドバイスカードDの順に、この時点において道徳的心情が高まっている生徒から高まりが十分でない生徒への手だてとしてのアドバイスカードを示している。

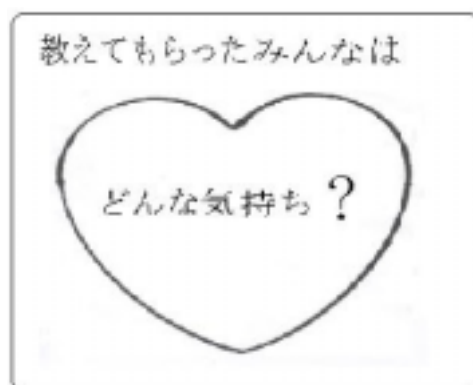
（ア）アドバイスカードA

「教えてもらって良かった。」「できるようになってうれしかった。」などの道徳的心情が高まっている生徒に対してのアドバイスカードである。



（イ）アドバイスカードB

「はさみの使い方」や「パンの焼き方」などの教えてもらった物事で考えがとどまっており、道徳的心情が十分に高まっていない生徒に対してのアドバイスカードである。



（ウ）アドバイスカードC

「アナグマはいろいろなことができた」「アナグマはすごいね」など、アナグマで考えがとどまっており、道徳的心情の一層の高まりが望まれる生徒に対してのアドバイスカードである。



（エ）アドバイスカードD

全く発問の答えが見出せない生徒に対してのイラスト入りのアドバイスカードである。

このアドバイスカードの活用によって、自分の考えがまとまらなかった生徒も道徳的心情を深めることができるようになり、次ページに紹介したような考えを示した。



<生徒の考え>

アナグマは自分がいなくなっても、みんなが幸せに暮らせるようにたくさんのことを教えてくれたことに気付いた。

アナグマはいつもそばにいてくれて助けてくれて頼れる存在だった。

みんなの父親代わりだった。

いなくなって初めてアナグマの存在の大きさに気が付いた。

アナグマがいなかったら生活が出来なかった。

アナグマがいなくなってさみしい気持ちになった。

3 第1分科会のまとめ

(1) 成果

以下のア～ウを中心とした取り組みを通して、生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する道徳的实践力を育てることができた。

ア 絵本の読み聞かせ

本分科会では、資料として絵本を活用した。これは読み聞かせを中心において生徒の心を揺さぶるような授業を展開していきたいというねらいがあったからである。絵本の読み聞かせには次のような成果がみられた。

(ア) 絵本の絵を視聴覚機器に取り込み提示することにより、生徒の興味・関心を高めることができ、生徒の心情を深め物語の世界に引き込むことができた。

(イ) 絵を見ることにより物語の把握が容易となり生徒が適切に理解することができた。

(ウ) 教師が感情を込めて読み聞かせをすることにより生徒の感性を高めることができた。

(エ) 生徒の反応や表情を見ながら授業を進めることができたので、適宜個に応じた指導をすることができた。

<生徒の感想>

私の家にも「わすれられないおくりもの」があります。一度読んだことがあるけれど、今日先生に読んでもらって、なんだか心が温かくなりました。これからの人生、生命を大切に生きていこうと考えました。

この絵本は私たちにいろんなことを考えさせてくれました。今日の授業を受けて、生命を尊ぶこと、人に感謝することはとても大切だと思いました。

アナグマさんのように、死んでしまってもその人の思いは周りの人に受け継がれるのだということがわかりました。一生懸命生きて自分も何かを人に残せるような人間になりたいです。

イ 本時の事後指導の工夫

自分にとってのアナグマへの感謝の気持ちを込めた感謝のカードを、道徳の時間を終えて間もない事後指導において書き上げるようにした。授業で高まった心情をそのままにして終えるのではなく、改めて自分の言葉で表現する活動を設定することで、生徒一人一人の生命の尊重について道徳的实践力をより高めることができた。

< 感謝のカード例（自分にとってのアナグマへの感謝の気持ちを込めて書いたカード） >

自分にとってのアナグマさんは〔先生〕です。

先生のおかげで、文字がきたなかった私は字がきれいになり、きちんと文章が書けるようになりました。私を指導して支えてくれた先生の気持ちが分かったような気がしました。頑張って生きていこうと思いました。本当にありがとうございました。

自分にとってのアナグマさんは〔お母さん〕です。

まず、私を産んでくれてありがとう。そして、ここまで育ててくれたこと、ほめてくれたりはげましてくれたりしたこと、悩みを聞いてくれたこと、お皿の洗い方やお風呂の洗い方などを教えてくれたこと、すべてを優しく教えてくれたことに感謝しています。私も生命を大切に、いろいろな応えてあげられるような人間になりたいです。

ウ アドバイスカードの活用

今回のアドバイスカードは、「みんなはアナグマの思い出を語り合ってどんなことに気が付きましたか」という発問に対して、道徳的心情を深め、生命はかけがえのない大切なものであることに気付かせることを目的に使用した。したがって、今回の授業で使用したものは、生命の尊重について道徳的心情を深めさせるアドバイスカードであった。

本アドバイスカードの成果は以下のようであった。

- (ア) アナグマから教えてもらった事実や単なる現象面のみを注目していた生徒たちが、生命の尊重について心情をより深めることができた。
- (イ) 生徒の反応を予想し、前もって複数のアドバイスカードを準備したことにより、より多くの生徒の道徳的心情を深めることができた。
- (ウ) 全く発問の答えが見い出せない生徒に対しては、イラスト入りのアドバイスカードを提示することにより、道徳的心情を深め自ら考えることを支援することができた。

(2) 課題

ア 適正な評価及び手だての実施

今回は、観察を中心に評価したが、道徳の時間においては、ねらいに即して、生徒の内面的な心の変化を適宜評価することが大変難しい。誰でも適正に評価できる研究を深めるとともに、今回研究したアドバイスカードや感謝のカードのように、生徒への手だてをさらに研究・開発していくことが必要である。

イ アドバイスカードの工夫

今回の絵本では、道徳的心情を図るアドバイスカードを使用した。同じ絵本で道徳的判断力や道徳的実践意欲と態度を図るアドバイスカードの活用についても、研究を進める必要がある。

内容項目 4 - (1)「集団生活の向上」についての指導 (第 2分科会)

1 内容項目設定の理由

ボランティア活動などに自主的に生き生きと取り組んだり、運動や芸術などにおいて輝く個性を発揮したりしている生徒の姿に、希望と期待をもつことがある。しかしその反面、基本的なマナーを守ることができなかつたり、排他的で衝動的な言動により他者を傷つけたりしている生徒の姿に、心を痛み道徳教育の充実を改めて考えることがある。このような生徒は、自己中心的で他者を思いやる気持ちや自分自身を大切に思う自尊感情が十分でない傾向が見られる。生徒を取り巻く社会は、物質的に豊かで便利となっているが、人間関係の希薄化や価値観の多様化が進み、社会的な責任より個人の権利が優先されるような状況もみられ、生徒の社会や集団の一員であるという意識の低下が課題となっている。

しかし、人間は一人で生きていくことはできない。他者とのかかわりを通してこそ、生きていくことができる。また、人間は常に集団や社会に所属し、集団の中で自分の責任を果たしていくことで、集団や社会も成り立つものである。集団があるから自分という存在があり、集団が高まることにより自分も成長していることを忘れてはならない。

そこで、これからの時代を担う生徒に、集団における自己の存在の意義や集団とのかかわり方に気付かせ、身近な体験に結びつけながら人間としてよりよく生きていこうとする力をはぐくむことが重要である。道徳教育のかなめとなる道徳の時間において、日常生活や学校生活での体験を生かし、道徳的実践力を高めていくことが必要である。そうすることで、自己の存在を確立し自分の価値に気付くことができ、他人を思いやる心や他者と共に生きる心などの、豊かな心をはぐくまれていくものである。

以上の理由から、本分科会では内容項目 4 - (1)「集団生活の向上」に焦点をあて、本道徳部会の研究主題に迫る手段として、以下の研究仮説を立て、それに基づき研究を進めることとした。

< 仮 説 >

身近な事柄を通して、集団の意義を明確にすれば、集団生活を向上させようとする意欲が高まり、豊かな心をはぐくまれるであろう。

2 研究の内容と方法

(1) 内容項目 4 - (1) のとらえ方

内容項目 4 - (1) は「自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。」ことが指導内容である。

この内容項目を通して、生徒に所属する集団についての意識をもたせ、どのような集団に所属しているのか、その集団は何を目標としているのかを理解させ、集団の一員としてよりよく生きていく力を育成することが大切である。生徒が集団における自らの役割を自覚し責任を適切に果たすことが、集団における存在意義であり集団における自分の居場所を確保することになる。また、生徒が集団の規律を守り自らの役割と責任を果たすという自覚をもつことが、集団生活を向上させ、生徒の集団における自己肯定感をはぐくむことになる。

本分科会では、次のことをおさえ内容項目のねらいの達成を目指した。

身近な事柄を題材とし、体験活動や日常生活等を振り返るとともに、心に響くような資料を用いて道徳的心情を高める。

所属する集団の意義と集団の目標を理解し、役割と責任を自覚させ、集団生活の向上を目指して主体的に行動しようとする意欲や態度を育てる。

集団の成員や他の集団など他者の立場や考えを認め、思いやりをもち、互いに励まし協力していくことで、集団が成長していくことを理解させる。

集団の向上とともに自分も人間的に成長していくことを理解させる。

以上の項目をおさえ、道徳の時間における指導を通して、子どもたちの中に人間としてよりよく生きていこうとする力や、主体的に他者とかがわっていこうとする意欲を高めることにした。このことが、他人を思いやる心や社会貢献の精神の基盤を培い、豊かな心をはぐくむことになると考えた。

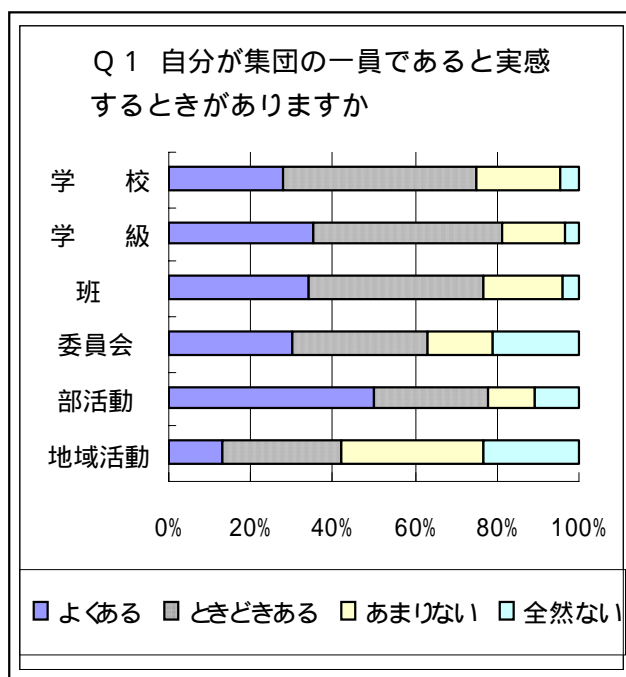
(2) 生徒の実態と指導のねらい

第2分科会では、生徒の実態を把握するため都内公立中学校の6校、第1学年から第3学年まで885人について、集団における意識や行動に関する調査を実施した。調査においては、生徒の意識と実践の両面を比較し反映できるように質問項目を工夫した。

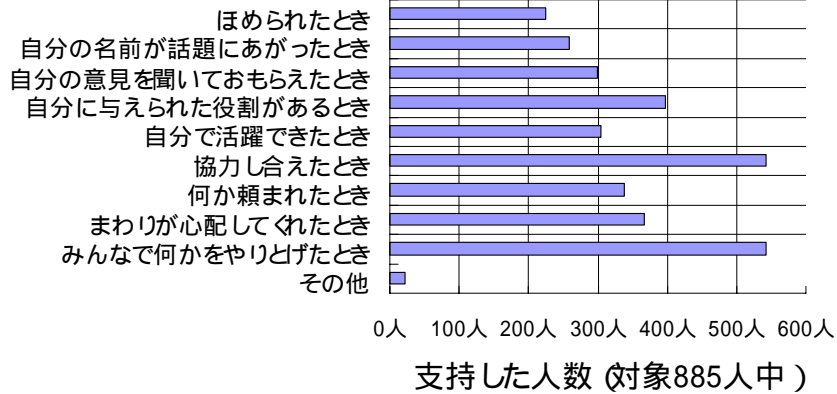
質問1では、様々な集団における所属感に対する意識の違いをみた。その所属集団のひとつとして「学校」を取りあげたが、他の「学級」「班」「委員会」「部活動」と分けるために、これらの活動場面以外という、ただし書きを添えて調査を行った。

この他、質問1と同様の7集団に対する「役割と責任の意識の強さ」と「各集団にいだく安らぎ感」について調べた。結果はそれぞれの集団に対する意識について、質問1とほぼ同じ傾向がみられた。質問1で所属感の強い「学級」「部活動」「学校」「班」において、「役割と責任の意識の強さ」「各集団にいだく安らぎ感」について肯定的な回答が多かった。「所属感」と「役割と責任の意識の強さ」「各集団にいだく安らぎ感」には関連性があると考えられる。

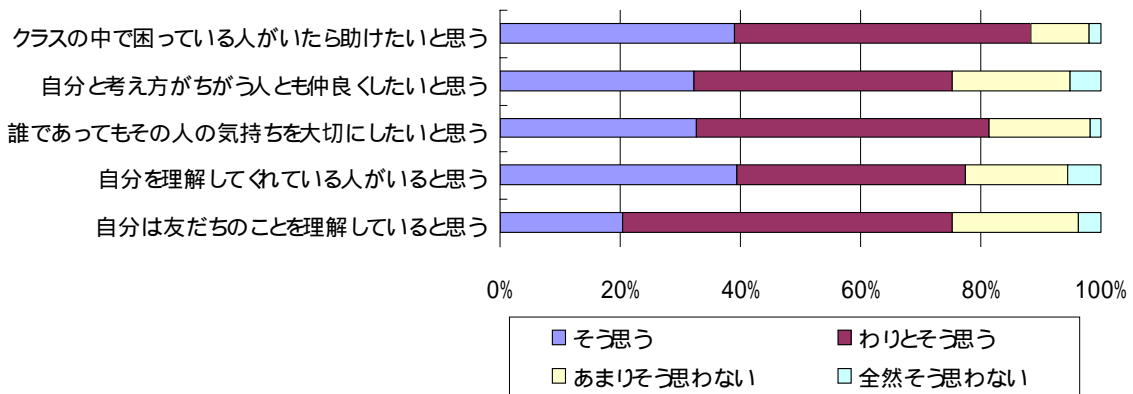
これらの関連性は、質問2の「集団の一員であることを強く感じるのはどのようなときですか」にも現れている。「何かを成し遂げる」「協力し合える」「自分の役割がある」という回答が多い事からも、所属集団の目標を明確にし、各自が適切な責任と役割をもって協力し合い活動することで、集団への所属感をより強く感じられることがわかる。



Q2 集団の一員であることを強く感じるのはどのようなときですか



Q3 集団と自分とのかかわりについての質問



質問3では、集団と自分とのかかわりについての5項目に対して、約8割の生徒が肯定的な回答をしており、生徒の多くが肯定的に集団を意識していることがわかった。

以上の調査に基づき本分科会では、学校行事や部活動など生徒の身近な体験を道徳の時間の題材として取り上げ、内容項目4 - (1)「集団生活の向上」について本研究主題に迫ることとした。こうすることで生徒が、協力して集団の目標を達成することの重要さや、役割や責任を果たすことの大切さなどを深く自覚することができ、より明確に集団の意義を理解できるのではないかと考えた。

(3) 個に応じた指導の一層の充実

ア 資料の開発と教材の工夫

道徳の時間に使う資料は、生徒が道徳的価値について内面的な自覚を深めていくための手掛かりとして、極めて重要な意味をもっている。本分科会では、生徒が資料の内容を自分の事として深くとらえ、人間としてよりよく生きていく力を育成するために、どのような資料が適切なものか検討を重ねてきた。その結果、資料の内容や資料で扱う登場人物などが生徒にとってごく身近なものであることが大きな要因であると考え、学校における生徒の共通した体験を生かせる自作資料を開発することにした。

本分科会では、自作資料の開発に当たって次の点に留意した。

すべての生徒にとって身近な体験であり、実際の活動時期も近い音楽会(合唱祭)を題材に選んだ。

主人公の人物像は、生徒の心情に入り込みやすいように個性を強くださないようにした。

登場人物が少ないと集団の向上のねらいに沿うことが難しいので、集団の中で個の存在がとらえられるように登場人物を多くした。

どの生徒にも読みやすく、しかも内容に深く入り込めるようシナリオ形式を取り入れた。

生徒が普段使っているような言葉遣いを取り入れ、資料の内容が身近に感じやすくした。

—単位時間で充分理解できる程度の量にした。

理解しやすくするために難しい漢字や言い回しを極力避けた。

また、教材は、自作の資料が効果的に活用され、生徒一人一人の道徳的なものの見方や考え方を深められるよう以下のように工夫した。

ストーリーの続きに対する期待感を高めるためにストーリーを分割し、資料を印刷した用紙の色も変え、場面の展開ごとに配布した。

生徒の興味・関心を高めるため、音楽会(合唱祭)の写真と合唱曲のBGMを導入に用いた。自分たちの過去の音楽会(合唱祭)の映像や音声にふれることにより、合唱練習が始まる前の期間であってもその時の気持ちが瞬時に呼び起こされ、題材に入り込みやすくした。

OHPなどの映像を用い登場人物やあらすじを確認することにより、ストーリーを適切に理解できるようにした。

シナリオの部分を複数の教員で読み聞かせることにより、生徒がストーリーに入り込みやすくした。

ワークシートには台詞形式や に言葉を入れる形式などを取り入れ、生徒が考えることを短い言葉を用いて記入できるよう配慮し、生徒の心情を豊かに表現できるようにした。

ワークシートに発問事項を記入しないことで、段階的な生徒の思考を促し、生徒の考えを引き出すようにした。

イ 役割演技の活用

主人公のシナリオの中に、あえて言葉を入れない「 」の箇所を設けた。この箇所にふさわしい台詞についてグループ毎で話し合った後、主人公になりきって役割演技をするようにした。このように主人公の台詞を想像することで、生徒がストーリーにより深く入り込めると考えた。

ウ アドバイスカードの活用

心情面をとらえることをねらいとした発問において、事象面をとらえることで止まっている生徒に対し、アドバイスカードを渡すことで道徳的心情を高め、さらに心情面について考えるように支援した。また、考えを深めていく過程でつま

づいている生徒に対しアドバイスカードを渡すことで、生徒が考えを深めていくことができるように支援した。検証授業では、あらかじめ数種類のアドバイスカードを準備し、机間指導しながら適切な場面でアドバイスカードを渡すようにした。アドバイスカードの内容は簡潔で分かりやすい温かい表記を用い、教師が温かな言葉を添えて生徒に渡すようにした。次の指導事例にてアドバイスカードの活用例を提示する。

(4) 指導事例(第2学年)

ア 主題名 集団生活の向上 [内容項目 4-(1)]

イ 資料名 「響け!心のハーモニー」(自作資料)

ウ 資料の概要

音楽会(合唱祭)を目前にして、実行委員である千恵は、普段はにぎやかであるのに合唱になると声を出さない静香のことで悩む。あるトラブルをきっかけに、学級の生徒一人一人に、様々な立場や意見があることを知り始める。その中で、お互いの立場を理解し自分と仲間を共に大切に思いながら、少しずつ学級がまとまっていく。




エ ねらい

集団の目標を達成しようとする中で、集団の一員としての役割と責任を果たし集団生活を向上させようとする態度を育てることを通して、豊かな心をはぐくむ。

オ 指導課程

	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	: 指導上の留意点、 : 評価 の観点及び< > : 評価方法
導入 3分	<p>昨年の音楽会(合唱祭)を振り返る。</p> <p>本時のねらいを話す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・優勝して嬉しかった。 ・色々あったけど最後はまとまることのできた。 	<p>映像を投影する。</p> <p>T1は写真を映し昨年の音楽会(合唱祭)を思い出させ、T2はBGMで合唱曲を流す。</p>
展開 開	<p>音楽会(合唱祭)に取り組む中で様々なトラブルもあったことを思い出し、プリント1を読む。</p> <p>[発問1] この場面での千恵の台詞を考えてみましょう。</p> <p>ストーリーの続き、プリント2を読む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・静香を説得する。 ・皆で声を出そう。 ・何も言えない。 	<p>【T.T.】</p> <p>T1、T2は臨場感を出すために、シナリオのところをチームティーチング形式で読む。(以下のプリントも同じに読む。)</p>



<p>展開</p> <p>32分</p>	<p>[発問 2]</p> <p>この場面で千恵はどうするでしょう。台詞を考えてみましょう。</p> <p>個人でプリント 2 の空欄に台詞を記入する。</p> <p>班ごとに、お互いの意見を聞き合う。</p> <p>役割演技の発表を行う。</p> <p>ストーリーの続き、プリント 3 を読む。</p> <p>今までの話を整理するためあらすじの確認をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ みんなに静香の事情を話す。 ・ 静香に戻るよう説得する。 ・ 何も言えない。 	<p>映像を投影し主人公、ストーリーを確認させる。</p> <p>【T.T.】</p> <p>T1、T2 はシナリオを読み、机間指導、生徒を観察する。</p> <p>< 役割演技 ></p> <p>集団をまとめる立場である主人公の気持ちに深く入り込むことができたか。</p> <p>【T.T.】</p> <p>T1、T2 はシナリオを読む。</p>
<p>終末</p> <p>15分</p>	<p>[発問 3]</p> <p>千恵がクラス全員が一つになれたと思ったのはなぜでしょうか。</p> <p>〔補助発問 1〕</p> <p>千恵は実行委員としてどのような努力をしてきたでしょうか。</p> <p>〔補助発問 2〕</p> <p>□がクラスを一つにした、の□に言葉を入れましょう。</p> <p>補助質問 2 を書いた短冊を個人に配布し、□に言葉を書き終えたら黒板に貼っていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 静香の事情を知り、クラスに戻れるよう働きかけた。 ・ 思いやりの心がクラスを一つにさせた。 ・ 話し合いがクラスを一つにした。 	<p>補助発問を考えることで発問 3 に迫る。</p> <p>アドバイスカードを活用する。</p> <p>T2 は、よりよい集団生活のために、どのような気持ちをもつことが大切であるかに気付いていない生徒にアドバイスカードを渡す。T1 は机間指導。</p> <p>アドバイスカード</p>  <p>< 観察とワークシート ></p> <p>登場人物の心の変化を感じることができたか。</p>

<p>今日の道徳の時間を通して感じたこと、考えたことをワークシートにまとめる。</p>	<p>・これから始まる合唱練習では話し合いを大事にしよう。</p>	<p>音楽会（合唱祭）以外の日常生活でも、ねらいを通して考えたことが生かせるように留意する。</p> <p><ワークシート></p> <p>集団生活を向上させようという態度を培い、豊かな心を育てることができたか。</p>
---	-----------------------------------	--

カ 評価の観点

ワークシートや役割演技を通して、集団をまとめる立場である主人公の気持ちに深く入り込むことができたか。

集団生活を向上させようという態度を培い、豊かな心を育てることができたか。

キ アドバイスカードの活用について

事象面でとらえている生徒に対して、心情面をとらえさせるようにした。（道徳的心情をはぐくむようにした。）

今回の活用例 - アドバイスカード

「**トラブル** がクラスを一つにした。」と考えた生徒に対しては、『その結果、クラスみんなにどんな気持ちが生まれた？』というアドバイスカードを用意した。

今回の使用例 - アドバイスカード

「**合唱** がクラスを一つにした。」と考えた生徒に対しては、『それを通して、クラスみんなはお互いに何が大切だと感じた？』というアドバイスカードを用意した。

アドバイスカード



《道徳的判断力及び道徳的实践意欲と態度をはぐくむアドバイスカードについて》

道徳的判断力とは、それぞれの場面において善悪を判断する能力である。本来、道徳的心情をはぐくまれていなければ、道徳的な判断をすることはできない。また、道徳的实践意欲と態度は、道徳的心情や道徳的判断力によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性を意味する。これらの道徳性の諸様相は、それぞれが独立した特性ではなく、相互に深く関連しながら全体を構成しているものである。そこで、道徳的心情、道徳的判断力、道徳的实践意欲と態度について、次のようにとらえた。

道徳的心情

道徳的判断力

道徳的实践意欲と態度

道徳的实践

アドバイスカードが活用できる場面は、上の **道徳的实践意欲と態度** であると考えた。本研究では「豊かな心をはぐくむ」ことを目標としたので、心情面が十分に深まっていない状態である生徒に対して、**道徳的心情**のアドバイスカードを活用した。さらに、**道徳的心情**まで達している生徒に対して **道徳的判断力**のアドバイスカードを、**道徳的判断力**まで達している生徒に対して **道徳的实践意欲と態度**のアドバイスカードの活用が考えられる。生徒一人一人の道徳性の実態に即し、個に応じた指導の一層の充実を図るためにアドバイスカードを活用できると考えた。

～響け！心のハーモニー～（抜粋）

I 音楽会（合唱祭）実行委員選出

A中学校2年5組は、この秋に行われる音楽会（合唱祭）の実行委員を決めていた。男子の実行委員は指揮者の浩が立候補して、すぐに決まった。女子の実行委員はなかなか決まらなかった。推薦で決めることになり、千恵とピアノ伴奏者の愛の名前があがった。結局千恵は実行委員を引き受けることにしたが、みんなをまとめられるかちょっと不安だった。それは、1年の3学期に転校してきた静香のことが気になったからだ。静香は、普段はにぎやかにおしゃべりしているのに、音楽の授業で歌を歌うときになると、声を出さないのだった。

II ある日の練習風景

練習開始から数日後、どのクラスからも歌声が聞こえてくる、ある練習日、小さなトラブルがおきた。

浩（指揮） 「ソプラノ全然聞こえないぞ。ちゃんと歌えよ。」
絵美（ソプラノ） 「わたしは歌ってるわよ。歌ってないの、だれ！」
恵子（パートリーダー） 「静香、歌ってるの！みんな歌ってるんだから、ちゃんと歌ってよ。」
静香（ソプラノ） 「わたしは歌ってるわよ。それに声が小さいくらいで、別にみんなのじゃましてるわけじゃないんだからいいでしょ。」
浩 「静香の口は動いてないぞ。それに、みんなが大きな声をだして歌わなきゃ優勝できないんだよ。静香はいつも声をださないでどういうつもりなんだよ。」
静香 （黙る）
千恵 【台詞をいれる】

～ 途中省略（Ⅲを省略） ～

IV 次の日 一本番まであと10日

浩 「またソプラノ聞こえないぞ。みんなもっと声だせよ。」
絵美 「男子だって、声小さいわよ。」
大介（パートリーダー） 「僕たちはがんばって歌ってるよ。聞こえないのは女子の方じゃないか。」
恵子 「聞こえないのは静香が歌わないからよ。私たちのせいじゃないわ。」
愛（ピアノ） 「ちょっと待って。静香だけをせめてもいい合唱なんかできない・・・、みんなバラバラじゃない。」
 （思わず涙があふれる）
静香 「わかったわよ。私、本番でなきゃいいんでしょ。」
 （静香、教室を出て行く。誰も静香を追わない）
千恵 【台詞をいれる】

～ 途中省略（Vを省略）～

VI 本番まであと一週間、そして当日の朝

愛 「恵子、どうしたの！」
恵子 「どうしよう。声が…声が全然出ないの。」
その声は、パートリーダーとは思えないほど、かすれた声だった。
大介 「大丈夫か？ あと一週間だぞ。何かいい方法、ないかなぁ。」
健二 「今日はもう終わりにしようよ。もう疲れたよ。」
広美 「最近、いつも練習時間オーバーしてるもんね。」
浩 「何言ってるんだよ。この調子じゃ優勝できないぞ。恵子、気合いで何とかがんばれよ。」
静香 「ちょっと！ 恵子の声が出なくなったらどうするのよ。このまま歌い続けたら、本当に出なくなるよ。」
浩 「えっ！」
静香 「まずは、うがい。それからのどを冷やさないこと。今日の練習は弱い声でハミングで歌うといいよ。」
大介 「静香、どうしてそんなこと知ってるんだよ。」
静香 「実は私も前に、恵子みたいに…。」

～ 途中省略 ～

愛 「そうだったの。全然知らなかった。」
みんなそれぞれ複雑な表情をうかべていた。
少したって愛が言った。
愛 「私たちのクラス、なんか、お互い分かり合えてないんじゃない？今日はみんな疲れてるみたいだし、歌うのはやめて、もう少し話し合わない？千恵ちゃん、どう？」
千恵 「すごくいいと思う。みんなはどうですか。」
みんな、うなずいた。
千恵 「じゃあ、合唱練習のことで、なにか意見があったら言ってください。」

～ 途中省略 ～

本番当日の朝、最後の練習が終わった。
浩 「いい感じになってきたな。俺、気持ちいいよ。」
千恵 「私、このクラスの実行委員をやって良かった。バラバラになった時もあったけど、今日の歌は…みんなが一つになれた気がする。」
千恵は本当のところ、2年5組は、合唱が上達したのかどうかは、わからなかった。ただ、純粋に、今ここにいるクラス全員が、一つになれたことに間違いがない、と確信できた。

3 第2分科会のまとめ

本分科会では、研究主題「自他を尊重し、豊かな心をはぐくむ道德の時間の指導」について、「身近な事柄を通して、集団の意義を明確にすれば、集団生活を向上させようとする意欲が高まり、豊かな心をはぐくまれるであろう。」との仮説のもと、内容項目4 - (1) についての研究を進めた。

(1) 成果

ア 資料の開発と教材の工夫

第2分科会1回目の検証授業では資料が長いという反省があり、ストーリーの内容を精選し短くして2回目の検証授業を行った。ストーリーを短くすることによりストーリー理解のための時間が短縮され、内容を考える時間が増えた。その結果、生徒一人一人が内容を深く理解することができた。また、ストーリーを三つに分割して配布したことで、ストーリーの続きに対する期待感を高めることができた。生徒にとってより身近な内容を素材として自らの体験を通して考えることができ、生徒一人一人が内容を深く理解することができた。

《自作資料に関する生徒の感想例》

音楽会（合唱祭）の練習でありそうな場面だなあと思いました。こういう場面でのまとめ役はどう対応するか難しいが、実際に考えてみると色々できることがわかってよかったです。

この話を聞いて、とてもリアルだと思いました。話の内容や話し方、書いてあることが身近にあることなので、自分のことのように思えました。話が進めば進むほどそう思えました。

イ 役割演技の活用

話し合いの時間を多く費やしてしまったが、主人公になりきって演技させることで、どの発表も白熱の演技であった。主人公の考えを台詞を通して発表したの、普段考えを発言しにくい生徒も容易に発表できた。

ウ アドバイスカードの活用

アドバイスカードを受け取ることにより新たな意欲が生まれ、一生懸命考えている様子を見ることができた。アドバイスカードを受け取ることで、更にねらいに迫った考えを自ら見いだしたり、深めたりできた生徒もいた。アドバイスカードを用い生徒自らが考えを深めることができたことは大きな成果であった。

エ 生徒の変容

事後の学習で授業を受けて感じたこと、考えたことについて記入させた。

《授業を受けての生徒の感想例》

授業を受けて思ったことは、人を理解することはとても大切だということです。すべてその人のせいにしてしまうのはとても自分勝手な行為だと思います。私たちの音楽会（合唱祭）はこのことに気をつけてやりたいと思います。

この授業を受けて私たちのクラスもまとまりができたから音楽会（合唱祭）で優勝できたんだと改めて思いました。来年は授業で学んだことを思いながら臨みたいですね。

これらの感想から、生徒が授業の内容を自分自身の問題としてとらえ、よりよい学校生活を主体的に実現していこうという道徳的実践力がはぐくまれたと思われる。授業の内容を自分の音楽会（合唱祭）に置き換え、その内容を次の行事の抱負にできたことは大きな効果といえる。

《授業を受けての生徒の感想例》

この授業を受けて私たちの学校のクラス代表の人もこのように考えてるのかなと思いました。これからは代表の言うことを聞いて、あまり疲れさせないように協力していきます。

この話を読んで責め合ったり、きつい言葉を発することは何の解決にもならないと感じた。注意するときも優しく言えば、誰でもわかってくれると思うから、今年もみんなで練習をがんばっていこうと思う。

何事も失敗は大切だと思いました。すべて何事もなく終わるより、失敗してみんなで話し合って失敗を乗り越えることが更に良いものをつくるきっかけになると感じました。

これらの感想からは、今までは気づくことがなかったリーダーの立場を考えたり、どのような言葉かけが有効であるかが深く考えられている。自分が属する集団を意識し集団行動を向上させようとする意欲が高められていると分析できる。

これらの感想を読んで授業の内容を自分の問題としてとらえ、これからの行動についての具体的な考えを述べている内容が多いと感じた。特に音楽会（合唱祭）はクラスのまとまりが勝敗を大きく左右するので、集団としてとらえやすい内容であったと思われる。自分のクラスをよりよくしたいという気持ちが検証授業での様子や感想から伝わってきた。

（２）課題

役割演技を発表する際、初めての検証授業ではグループでの話し合いの時間を十分に設定したため、よく考え豊かな演技で表現することができたが、個人でまとめる時間が足りなくなってしまった。そこで、２回目は時間配分を考え検証を行ったが、話し合いが足りないためか人前での演技を恥ずかしがる生徒の姿があった。恥じることなく豊かに役割演技するよう指導を工夫する必要がある。

アドバイスカードは、評価した生徒への手だての一つであり、生徒が道徳的実践力をはぐくむことを支援するカードである。生徒が初めてアドバイスカードをもらうと、自分が間違っていると勘違いしてしまう場面があったので、検証授業を通して生徒が誤解しないで支援を受け入れられるよう改善した。アドバイスカードの内容、生徒に渡すタイミングなどについて検討していきたい。

今回、検証授業で使用したアドバイスカードは、ねらいに沿って道徳的心情に迫るためのカードであった。ねらいによっては道徳的判断力や道徳的実践意欲と態度に迫るためのアドバイスカードが必要である。個に応じた指導に有効であったことを考えると、更なるアドバイスカードの研究・開発が必要である。

以上の課題があったが、検証授業では生徒が生き生きと授業に取り組み、多くの意見を友達と交わし、道徳的実践力をはぐくんでいく姿をみることができた。

まとめと今後の課題

1 まとめ

本研究では、「自他を尊重し、豊かな心をはぐくむ道德の時間の指導」を研究主題に設定し、主題に迫るために2つの分科会に分かれ、第1分科会では、内容項目3-(2)「生命の尊重」を取り上げ、第2分科会では、内容項目4-(1)「集団生活の向上」を切り口に、自他を尊重し、豊かな心をはぐくむべく、効果的な授業の展開を考えた。

人間関係が希薄化している現代においては、「生きる力」の核となる豊かな心をはぐくむ機会が乏しい。学校における道德教育のかなめとなる道德の時間において、生徒一人一人に自分の心をより深く見つめさせ、自分の課題として今後の生活に生かしていくことが大切である。そのため、身近で共感できる内容を選定し、生徒一人一人の心情を深め、生徒の心に響く道德の時間の指導を目指した。

さらに、副主題にもある「個に応じた指導の一層の充実」に重点を置いて研究を深め、以下の工夫より効果的な授業の展開につなげることができた。

(1) アドバイスカードの開発・活用

本研究では、生徒の道德的実践力を高めるため、アドバイスカードの開発・活用に取り組んだ。道德の時間における評価を通して、支援が必要と思われる生徒の手だてとしてアドバイスカードを提示することにより、生徒は考える方向性を自ら整理し、より考えを深めることができた。また、音声を使わず文字による支援ができるので、支援を必要とする生徒への個別の対応ができ、文字を見て考えられるので生徒が発問の意味をとらえやすいという効果もあった。

(2) 絵本の読み聞かせ、事後指導の工夫、資料の開発、役割演技の活用等

絵本の読み聞かせ、事後指導の工夫、資料の開発、役割演技の導入、視聴覚機器の活用、発問が先読みできない等のワークシートの工夫を通して、生徒一人一人の心情を高め想像力をはぐくみ、資料の内容に入り込みやすくさせることができた。

検証授業では、生徒一人一人が想像力を高めながら懸命に身分自身を見つめ考え、生き生きとした表情で取り組む姿を見ることができた。授業後の生徒の多くの感想文からは、登場人物の心情を深くとらえることができ、授業で学んだことを今後の自らの生活に生かしていこうとする姿が伝わってきた。今後も継続して、本研究が日々の生徒の生活実践につながり、生徒の道德的実践力が高まるように取り組んでいく。まだ研究途上の部分もあるが、このような生徒の姿から、個に応じた指導の一層の充実を図ることにより、「自他を尊重し、豊かな心をはぐくむ道德の時間の指導」に迫ることができたと考える。

2 今後の課題

- (1) 効果を検証するための生徒の実態把握及び長期にわたる生徒の変容。
- (2) さらに効果的な生徒の心に響く資料の選定・開発。
- (3) 道德の時間における教員等による自主的なチームティーチング等の個に応じた指導の推進及び工夫・改善。
- (4) 道德の時間における適正な評価とアドバイスカードの適切な活用についての研究。
- (5) 道德的判断力や道德的実践意欲と態度に迫るためのアドバイスカードの研究・開発。

平成16年度 教育研究員名簿(道 徳)

	区市町村名 地区	学 校 名	氏 名
第 1 分 科 会	台 東 区	柏 葉 中 学 校	飯 塚 貴 子
	世 田 谷 区	玉 川 中 学 校	岩 崎 弘 晃
	杉 並 区	松 溪 中 学 校	恩 田 智 章
	葛 飾 区	中 川 中 学 校	岡 宗 秀 和
	国 立 市	国 立 第 一 中 学 校	永 井 玲 子
	あ き る 野 市	秋 多 中 学 校	塚 越 俊 光
第 2 分 科 会	新 宿 区	西 戸 山 第 二 中 学 校	紅 林 昌 子
	大 田 区	大 森 第 一 中 学 校	高 瀬 ひ と み
	豊 島 区	千 登 世 橋 中 学 校	関 谷 さ や か
	足 立 区	第 十 二 中 学 校	橋 直 幸
	府 中 市	浅 間 中 学 校	辰 巳 典 子
	日 野 市	大 坂 上 中 学 校	前 田 博

世話人 副世話人

担当 東京都教職員研修センター統括指導主事 大野 恵一郎

平成16年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録
平成16年度 第21号
(東京都教育委員会主要刊行物)

平成17年1月24日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14
電話番号 03-5434-1974

印刷会社名 鮮明堂印刷株式会社